

平成29年度

事業報告

公益財団法人かながわ国際交流財団

平成29年度事業報告

設立 40 周年（1977～2017）を迎え、そのあゆみをホームページで発信するとともに、今まで実施してきた主な事業の業務分析を行い、全職員による今後の財団の目指すべき姿を共有できるような検討を重ねた。また、職員の働き方や業務プロセスの合理化を図るタスクチームを設置するなど、生産性の向上も図った。

「1 多文化共生の地域社会かながわづくり」

「多言語支援センター運営事業」では、NPO 法人多言語社会リソースかながわとの協働事業としてスタートして受託 2 年目となり、安定した軌道に乗せることができた。財団の「外国人住民子育て支援事業」等と連動し相乗効果を発揮して、窓口およびコールセンター業務の問い合わせ件数は着実に伸び、言語スタッフの活躍の場も増加した。多言語情報メール「INFO KANAGAWA」は多言語支援センターと相互補完的な役割を担うとともに、他事業と連携した広報を行うなど読者数が伸びた。

「外国人住民子育て支援事業」においては、企業・団体の協賛や協力を得ながら「外国人住民子育て応援キット」の作成・普及に取り組んだ。また、行政や医療機関等との連携を強化しながら、子育て支援動画の制作・普及、通訳支援の試行、専門職対象の研修等を行った。

「2 県民・NGO 等との連携・協働による国際活動の促進」

平成 5 年に設置された「かながわ国際協力基金」は、昨年度で 25 周年を迎え、NGO 等が行う活動 140 件への資金助成を行ってきた。昨年度は、国際協力事業 1 件、国内協力事業 2 件、多文化共生の地域社会づくり応援事業 2 件、合計 5 件への助成を決定したが、多文化共生の地域社会づくり応援事業では、ネパールとミャンマーの新たなコミュニティからの応募であった。

「外国人コミュニティ連携強化事業」では、「かながわ・こみゅにてい・ねっとわーく・さいと」を運営し、外国人コミュニティの活動を広く発信した。「防災」をテーマに外国人コミュニティとの意見交換会では参加者の高い関心を引き出し、コミュニティのエンパワーメントにつなげた。

「3 国際性豊かな人材の育成」

高校生を対象とする事業では、「SDGs」をキーワードに、共催団体の JICA 横浜で開催している展示の活用やワークショップなどを行うとともに、「哲学対話」を通してテーマを自分事として深く考える場とした。

また、大学生を対象とする「国連大学グローバルセミナー」では、「グローバル自由経済における国際機関の役割」をテーマとして、国境を越えて移動する人々をめぐる様々な課題について講義とグループディスカッションに加え、地域レベルで活動している NGO 等を講師とした「かながわセッション」などにより「グローバルとローカル」がリンクする多層的なプログラムを実施した。また 15 回目を迎えた「インカレ国際セミナー」では、「アジアの中の日本」のテーマにより、無国籍や NGO 等脱国家的な視点を織り込んで幅広い討論と交流を行った。

「4 学術・文化交流の促進」

「かながわフォーラム開催事業」は、「神奈川のコミュニティとグローバリゼーション」をトータルテーマとして、前年度からのシリーズ方式で開催した。格差の拡大、貧困の拡がり、コミュニティの崩壊などの社会的課題の解決に向け、生存・生活のニーズを財政や地域社会でどのように満たしていくのか、県内のさまざまな取組みをとりあげて議論し、フォーラム参加者の意識の変容を促した。

「社会教育・文化施設間連携事業」ではキックオフとなるフォーラムを皮切りに、県立近代美術館をはじめとする県内 4 つの公立美術館等のプラットホームづくりに取り組んだ。各館がそれぞれの地域における作業所、学校、大学等、様々なアクターと連携し、県内在住の定住外国人や障がい者等を対象としたワークショップの企画検討を行い、一部は実施した。また美術館から障がい者等へのアプローチ手法を学ぶ研修会を開催した。

事業体系

	大項目	中項目	個別事業
1	多文化共生の 地域社会かながわづくり	外国人住民への 生活情報の提供と安全サポート	生活情報提供・流通促進事業
			災害時情報提供事業
			多言語支援センター運営事業
		外国につながる 子ども・家族への支援	外国人住民子育て支援事業
			多文化共生教育推進事業
			外国につながる保育士養成事業
		留学生・元留学生への支援	留学生・元留学生の社会参加促進事業
2	県民・NGO等との 連携・協働による国際活動の促進	NGO/NPOへのサポート	かながわ民際協力基金助成事業
		外国人コミュニティと 地域社会の接点づくり	外国人コミュニティ連携強化事業
		県民活動支援	情報発信事業
3	国際性豊かな人材の育成	高校国際教育支援	高等学校への学習プログラム支援事業
			高校生対象国際セミナー開催事業
		大学間連携 グローバル人材育成	国連大学グローバルセミナー開催事業
			インカレ国際セミナー開催事業
4	学術・文化交流の促進	学術交流による ローカリゼーションの強化	かながわフォーラム開催事業
			湘南国際村アカデミア開催事業
		文化交流の推進	社会教育・文化施設間連携事業
		調査研究	調査研究事業
			学術交流・成果発信事業

1 多文化共生の地域社会かながわづくり

(1) 外国人住民への生活情報の提供と安全サポート

① 生活情報提供・流通促進事業

ア 「INFO KANAGAWA」による情報提供

(ア) 多言語情報メールサービス「INFO KANAGAWA」の配信

配 信	56回
対 象	外国人住民、NGO/NPO 関係者、行政関係者等
内 容	行政からのお知らせ（保健、福祉、教育、防災等）、その他生活に必要な情報、イベント情報等
言 語	やさしい日本語、中国語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、英語
登録者数	① 8,197名（参考：H28 2,783名） 内訳：やさしい日本語 1,656名、中国語 1,101名、スペイン語 513名、 ポルトガル語 347名、タガログ語 943名、英語 3,637名 ② 1,253名（Facebook ファン数）（参考：H28 963名）

イ 多言語情報の普及

(ア) 「神奈川で生活する外国人住民のためのお役立ち情報」パンフレットの更新・発行

仕 様	A5版カラー
言 語	やさしい日本語、中国語、スペイン語、タガログ語、英語、ベトナム語 ※日本語併記
部 数	各2,000部 合計12,000部

(イ) 外国人コミュニティや国際交流協会等のイベントでの多言語資料の配布

「ベトナムフェスティバル（横浜市中区）」、「さがみはら国際交流ラウンジ交流会」等

ウ 「多言語医療問診票」の提供

対 象	外国人住民、医療関係者、NGO/NPO 関係者等
言 語	18言語 （中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、 英語、タイ語、インドネシア語、カンボジア語、ネパール語、ラオス語、ドイツ 語、ロシア語、フランス語、ペルシャ語、アラビア語、クロアチア語） *日本語は各言語に併記
科 目 数	11科目 （内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、眼科、産婦人科、耳鼻 咽喉科、歯科、精神科）
リンク・転載掲載等件数	34件
アクセス数	213,751件（参考：H28 188,437件）

エ 日本語教室、学習補習教室、母語教室の情報提供

調査件数	情報内容の確認依頼：114件 新規掲載件数：2件 削除件数：4件
掲載件数	日本語教室：30件（8市町村は各教室案内サイトにリンクすることとした） 学習補習教室：14件 母語教室：11件
アクセス数	56,232件（参考：H28 56,564件）

② 災害時情報提供事業

ア 「神奈川県災害多言語支援センター」の設置・運営訓練の実施

日 程 平成 29 年 11 月 21 日 (火)
 会 場 多言語支援センターかながわ (横浜市神奈川区)
 内 容 マニュアルの内容確認、相談対応訓練等
 参加者数 24 名 (県 4 名、MIC かながわ 3 名、財団 17 名)

イ 神奈川県内災害多言語支援センター連絡会の開催

日 程 平成 29 年 10 月 18 日 (水)
 会 場 公益財団法人横浜市国際交流協会 (横浜市中区)
 内 容 各災害多言語支援センターの状況、取組、訓練方法等に関する情報共有
 参加者数 10 機関 14 名

神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、大和市、(公財)横浜市国際交流協会、(公財)川崎市国際交流協会、さがみはら国際交流ラウンジ、(公財)大和市国際化協会、(公財)かながわ国際交流財団

③ 多言語支援センター運営事業【神奈川県委託】

ア 窓口及びコールセンター業務 (多言語ナビかながわ)

言 語 英語、中国語、タガログ語、ベトナム語、スペイン語、やさしい日本語
 方 法 電話、来所
 内 容 神奈川県や日本の制度 (医療・保健福祉・子育てなど)、日常生活に必要な情報、生習慣等に関する情報提供
 件 数 2,198 件 (内訳 来訪 : 391 件 電話 : 1,308 件 電話通訳 : 276 件 文書 : 223 件)
 (参考 : H28 900 件)
 言 語 英語 141 件、中国語 108 件、タガログ語 227 件、ベトナム語 322 件
 やさしい日本語 1,183 件、スペイン語 153 件、その他 64 件

イ 外国籍県民支援人材育成業務

	実施日	概 要
1	平成 29 年 5 月 26 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ●題目：“多文化の家族”のサポートネットワークを考える ～外国人支援の現場報告を聞きながら～ ●会場：横浜市開港記念会館 4 号室 ●対象：県内在勤のスクールソーシャルワーカーおよび かながわ弁護士会所属弁護士 ●参加者数：24 名 ●講師：財団職員 ●内容：講義、質疑応答、ディスカッション
2	平成 29 年 6 月 29 日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ●題目：外国につながる子どもの心の育ち ～カウンセリングによる子ども支援を通して～ ●会場：桜本保育園 (川崎市) ●対象：保育士や多文化共生保育に関心のある方 ●参加者数：28 名 ●講師：田中ネリ (四谷ゆいクリニック臨床心理士) ●内容：保育園見学、寸劇、手遊び・歌の紹介、講演
3	平成 29 年 7 月 9 日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ●題目：外国につながる子どもたちが希望をもてる社会をめざして ～発達段階に応じた支援を考える～ (共催：株式会社明石書店) ●会場：神奈川韓国会館 7 階 ホール ●対象：外国人住民支援従事者、一般 ●参加者数：150 名 ●講師：小島祥美 (愛知淑徳大学准教授)、松井リリアン (YMCA いずみ保育園保育士)、大谷千晴 (平塚市立旭陵中学校教諭)、田中宝紀 (NPO 法人青少

		年自立援助センター定住外国人子弟支援事業部統括コーディネーター)、 山野良一(名寄市立大学教授) ●内容:講演、実践報告、討論
4	平成29年9月22日(金)	●題目:外国につながる子ども・家族について ●会場:神奈川県中央児童相談所 ●対象:児童相談所2年目職員 ●参加者数:33名 ●講師:財団職員 ●内容:講義、演習、グループワーク
5	平成29年10月20日(金)	●題目:日本で子どもを育てて・日本で育て ●会場:川崎区役所4階 研修資料室 ●対象:保育士 ●参加者数:24名 ●講師:李原翔(あーすぶらざ外国人教育相談中国語サポーター)、 松井リリアン(YMCAいずみ保育園保育士) ●内容:講演、対談、グループワーク
6	平成29年10月21日(土)	●題目:多言語スタッフのための日本語ブラッシュアップ講座 ～職場をつなぐ「ほうれんそう」と報告のわざ～ ●会場:かながわ県民センター12階 第一会議室 ●対象:外国人通訳者、相談員等 ●講師:村上まさみ(神奈川県立国際言語文化アカデミア) ●参加人数:7名
7	平成29年11月9日(木)	●題目:「やさしい日本語」～日本語でコミュニケーション～ ●会場:かながわ県民センター11階 コミュニティカレッジ講義室1 ●対象:かながわ県民センター入居機関の職員 ●講師:坂内泰子(神奈川県立国際言語文化アカデミア) ●参加人数:17名 ※かながわ県民活動サポートセンター主催講座において企画協力

ウ 希少言語等専門人材の確保・育成業務

(ア) 雇用した職員数

ベトナム語 5名、タガログ語 2名

(イ) 希少言語等専門人材の確保・育成(職員研修)

実施日	会場	テーマ・内容	講師	参加者数
平成29年5月13日(土)	かながわ県民センター15階 共用研修室	情報共有 対応能力向上 日本語能力スキルア ップ 7月と9月は通訳能力 向上研修も実施	岡田澄恵 小島佳子	6名
平成29年7月22日(土)	かながわ県民センター12階 会議室		岡田澄恵 小島佳子 岩本弥生	10名
平成29年9月2日(土)	かながわ県民センター15階 共用研修室		岡田澄恵 坂内泰子 岩本弥生	10名
平成29年11月18日(土)	かながわ県民センター15階 共用研修室		岡田澄恵 村上まさみ	9名
平成29年1月13日(土)	かながわ県民センター15階 共用研修室		岡田澄恵 村上まさみ	10名
平成29年3月3日(土)	かながわ県民センター15階 共用研修室		岡田澄恵 小島佳子	9名

※岡田氏はソーシャルワーカー、その他の講師は神奈川県立国際言語文化アカデミアに派遣を依頼。

(ウ) その他の研修

多言語支援センタースタッフを県および外部団体が主催する研修会に派遣した。

エ 通訳派遣業務

言語	内容	派遣件数	
ベトナム語	医療通訳	79	(参考：H28 81)
	一般通訳	25	(参考：H28 28)
タガログ語	医療通訳	100	(参考：H28 93)
	一般通訳	28	(参考：H28 21)
合計		232	(参考：H28 223)

オ 広報

(ア) チラシ・ポスター及びカードの作成・普及

仕 様 (チラシ) A4 版 (カード) 名刺サイズのカード版 (ポスター) A1 版
 部 数 (チラシ) 30,000 部 (カード) 5,000 部 (ポスター) 2,000 部
 発 送 県内国際交流協会、行政、外国人コミュニティなど
 配 布 行政職員向け研修、MIC ボランティア向け研修、教会、JICE 外国人就労・定着支援研修等で配布

(イ) 広告

媒 体 かながわ県民センター 広告掲示 (6ヶ月間)

(ウ) イベント・講座などでの広報

いちょう団地祭り、ベトナムフェスタ、綾瀬国際交流フェスティバル、外国人就労・定着支援研修などで配布・説明

(2) 外国につながる子ども・家族への支援

① 外国人住民子育て支援事業

ア 子育て支援情報の整備・充実

(ア) 「外国人住民子育て応援キット」の制作・普及

外国人住民が出産・子育てに必要な多言語情報をまとめてセットし、妊娠・出産時に入手できるよう普及した。

内 容 外国人住民のための子育てチャート、産前・産後確認シート、多言語医療問診票 (婦人科、小児科)、「多言語ナビかながわ」チラシ、「INFO KANAGAWA」チラシ

部 数 (言語) 13,200 部 (中国語 3,960 タガログ語 1,600 ベトナム語 1,060、ポルトガル語 900、スペイン語 950、英語 4,730) ※すべて日本語併記

配 布 先 県内市町村母子手帳交付窓口、協力医療機関、子育て支援センター、国際交流団体等

(イ) 「外国人住民のための子育てチャート」ネパール語版の制作・普及

在留ネパール人が増加し、家族滞在の子育て世代も多くいることから、「外国人住民のための子育てチャート」のネパール語版を追加作成し、ネパール人が活用できるよう普及した。

仕 様 A3 版

部 数 1,000 部

配 布 先 県内市町村母子手帳交付窓口、協力医療機関、子育て支援センター、国際交流団体等

イ 子育て支援動画の制作・普及（自治体国際化協会助成事業）

妊娠・子育てにおいて、外国人住民にとって難しいテーマを選び、動画を作成し、広く普及をおこなった。

（ア） 子育て支援動画の制作

タイトル 動画『外国人住民のための日本の子育て』

内 容 ① 外国人住民のための子育てチャート（12分37秒）

② 母子手帳ってなあに？（8分2秒）

③ 母子訪問について（7分10秒）

字 幕 中国語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、英語、ネパール語

媒 体 DVD及びYoutubeへの配信 DVD作成部数 500部

動画説明書作成部数 A3版 2,000部

外国人向け動画紹介チラシ作成部数 A4版 6,500部

広報先 県内市町村母子手帳交付窓口、医療機関、子育て支援センター、国際交流団体等

Youtube視聴回数 4,043回

（イ） フォーラムの開催（共催：公益財団法人横浜市国際交流協会）

日 程 平成30年2月3日（土）

会 場 JICA 横浜（横浜市中区）

情報提供 今井美智代（綾瀬市役所保健師）、横浜市国際交流協会職員、財団職員

テ ー マ 「外国人住民の妊娠から子育てを地域でどう支えるか」

対 象 子育て支援者、外国人支援者、行政関係者など

参加者数 60名

ウ 子育て支援分野への通訳派遣の試行

対 象 県市町村（母子保健・保育関連、子育て支援関連部署）、保育園等

内 容 子育て支援分野への通訳派遣

派遣実績

	綾瀬市	伊勢原市	座間市	大和市	中井町	秦野市	厚木市	県児相	合計
ベトナム語	4	3		2					9
英語	4		1					1	6
タガログ語		2	1		3				6
スペイン語		1	1	1		1			4
カンボジア語		2		1					3
ポルトガル語			1				1		2
タイ語	1								1
	9	8	4	4	3	1	1	1	31

（参考：H28 64）

※試行は平成28～29年度の2カ年で実施。30年度より通訳費を予算化した市町村あり

エ 研修・セミナーの企画・実施

	会場	テーマ・内容	対象	参加者数
10月19日	綾瀬市役所	外国につながる母子を理解するために	綾瀬市主任児童委員・保健師	13
10月31日	県社会福祉会館	外国につながる子どもたちの気持ちを考える	児童養護施設職員	21
11月14日	瀬谷区地域子育て支援拠点にこてらす	子育て動画上映会	ベトナム出身の母親	8
2月3日	JICA横浜	外国人住民の妊娠から子育てを地域でどう支えるか(再掲)	子育て支援関係者	60

② 多文化共生教育推進事業

ア 外国につながる子ども支援のための関係機関連絡会の開催（共催：神奈川県教育委員会）

- 日 程 平成29年10月12日（水）
- 会 場 県立国際言語文化アカデミア（横浜市栄区）
- 内 容 外国につながる子どもの教育支援に関する情報共有、先進事例の紹介等
- 参加機関 20機関37名（神奈川県及び以下各市町村の教育委員会：横浜市、相模原市、横須賀市、藤沢市、茅ヶ崎市、逗子市、厚木市、大和市、海老名市、綾瀬市、清川村、平塚市、秦野市、伊勢原市、小田原市、中井町）、NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ、神奈川県立地球市民かながわプラザ、（公財）かながわ国際交流財団）

イ 外国につながる子ども支援のための調査

国際教室設置校のある市・町教育委員会の協力を得て、「国際教室在籍生徒の進路に関わるアンケート調査」を実施し、報告書にまとめた。

- 調査対象：神奈川県内で国際教室設置校のある全市町教育委員会（14市町）
横浜市内の国際教室設置の全中学校（20校）（対象中学校数の合計：58校）

ウ 子どもの支援に活用できる資料の企画

項目	内容
夜間中学校アンケートの翻訳	県教委が実施した「夜間中学に関するアンケート調査」の翻訳に協力（英語、中国語、タガログ語、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語）
イスラームの家族向け多言語資料の翻訳（平成30年3月実施）	学校生活に関する質問票および用語一覧の多言語資料を翻訳し、平成30年度に資料を作成予定（ウルドゥ語、タミル語、インドネシア語、マレー語および英語）

エ 支援者の研修への協力やイベント等への出展

時期	場所	内容	詳細
5月8日、9月4日、1月15日	県立地球市民かながわプラザ	あーすぶらざ教育相談ケース会議への参加	関係機関との情報交換、ケースの共有、助言
10月29日	大和市立光丘中学校	第67次神奈川県教育研究集会「かながわ教育フェスティバル2017」	ブース出展、財団発行物の配布、相談対応
11月20日	愛川町教育委員会	教育相談事業連絡協議会	外国につながる子ども支援に関する情報提供、相談対応

12月3日	県立地球市民かながわプラザ	外国につながる子ども支援のためのネットワーク会議	提案事業の報告、情報交換
1月18日	相模女子大学	CEMLA研究会	外国につながる高校生支援に関する情報共有

③ 外国につながる保育士養成事業

神奈川県福祉事業協会からの助成を受け、横浜 YMCA との協働により、外国につながる保育士養成を支援する「神遊協・神福協奨学金」を運営し、第三期の奨学生の募集及び選考を行った。

出願期間	平成 29 年 10 月 2 日（月）～18 日（水）
試験日	平成 29 年 10 月 21 日（土）
奨学生採択	4 名（応募者数 5 名）
対象期間	平成 30 年 4 月から平成 33 年 3 月まで
一人当支給額	180 万円（50,000 円×12 か月×3 年間）
奨学生数	9 名 第一期 1 名 ブラジル 第二期 4 名 フィリピン、ブラジル、ペルー、ペルー・ボリビア 第三期 4 名 中国、ベトナム 2 名、ドミニカ共和国

(3) 留学生・元留学生への支援

① 留学生・元留学生への社会参加促進事業

ア かながわ留学生相談会におけるミニセミナーの開催

日程	平成 29 年 7 月 7 日（金）
会場	日石横浜ホール（横浜市西区）
内容	かながわ留学生相談会におけるミニセミナー「先輩留学生からのアドバイス」の実施
講師	于嘉（中国・横浜国立大学大学院留学生） ファム・テー・クーン（ベトナム・横浜国立大学大学院留学生） ラジェンドラ・ポーデル（ネパール・東京デザインテクノロジーセンター元留学生）
主催	かながわ留学生相談会実行委員会（構成団体：当財団、（一社）神奈川県専門学校各種学校協会、アジア国際語学センター、翰林日本語学院）
対象	県内の日本語学校及び専修学校に在籍している外国人留学生
参加者数	186 名

イ ミニセミナー講演内容の財団ホームページへの掲載

2 県民・NGO等との連携・協働による国際活動の促進

(1) NGO/NPO へのサポート

① かながわ民際協力基金助成事業

「かながわ民際協力基金」の運用益を活用し、NGO 等が行う国際協力活動等に対して助成を行い、それぞれの課題解決の一助とするとともに、継続的なフォローアップを行うことで、団体の育成に寄与した。

ア 第 49 回審査委員会

日程	平成 29 年 8 月 1 日（月）
会場	かながわ県民センター12 階第 1 会議室（横浜市神奈川区）
申請件数	7 件（国際協力 1 件、国内協力 2 件、担い手育成事業 1 件、多文化共生の地域社会づくり応援事業 3 件）

助成件数 5 件（国際協力 1 件、国内協力 2 件、多文化共生の地域社会づくり応援事業 2 件）
 助成額計 2,640,000 円

区分	助成事業名	団体名	実施地域	助成額
国際協力	アフリカの非電化地域にICT教育機会を創るプロジェクト	NPO 法人 Class for Everyone	タンザニア	1,217,000円
国内協力	フィリピン等「外国にルーツがある中学生」のための英語による学習支援教室事業	わたぼうし教室	横浜市 南区	323,000円
	絵から始まる外国につながる子どもたちの日本語教育～観察力・倫理的思考力・対話力を高める為に～	NPO 法人 かながわ難民定住援助協会	大和市	700,000円
多文化共生 の地域社会 づくり応援 事業	在日ミャンマー人のための生活相談および支援事業	リンクトゥミャンマー	県全域	200,000円
	相談窓口プロジェクト	かながわネパール人 コミュニティ	県全域	200,000円

(2) 外国人コミュニティと地域社会の接点づくり

① 外国人コミュニティ連携強化事業

ア 外国人コミュニティの意見交換会の開催

日 程 平成 30 年 3 月 18 日（日）
 会 場 かながわ県民センター（横浜市神奈川区）
 講 師 小倉丈佳（NPO 法人プラス・アーツ）
 テー マ 「すぐできる！生活防災術～防災リーダーになるには～」
 情報提供 日本赤十字社神奈川県支部
 参加者数 20 名

イ 「かながわ・こみゆにてい・ねっとわーく・さいと」の運営

アクセス数 40,960 件（参考：H28 42,628 件）
 掲載件数 50 件
 情報収集先 外国人コミュニティ、NGO/NPO・ボランティアグループなど支援団体、県内自治体、
 国際交流協会等
 U R L <http://www.kifjp.org/kcns/>

ウ あーすフェスタかながわ 2017 及び 2018 の実施への参加

実行委員会及び企画委員会に参加し、企画等を行った。

(3) 県民活動支援

① 情報発信事業

ア 情報提供事業

財団ホームページを運営し、多方面に情報提供を行った。
 アクセス数 435,765 件（参考：H28 405,340 件）
 言 語 5 言語（英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語）
 ※一部のコンテンツについては、中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、ポルトガル語、
 スペイン語、ベトナム語、英語、タイ語、カンボジア語、ラオス語の 10 言語に翻訳
 U R L <http://www.kifjp.org>

イ 年次報告書の発行

年次報告書を発行し、多方面に財団の取り組みの概要に関する情報提供を行った。

部 数 1,000部

仕 様 A4版/19頁

配 布 先 財団会員、寄付者、事業関係者等

ウ 国際活動促進および財団活動への理解促進のための活動

県内の多文化共生の地域づくりや地域の国際化の促進や財団活動の理解促進を目的に、職員が研修会の講師や審議会等の委員を務めた。

(ア) 職員の講師派遣

日 程	会 場	依 頼 者	講 義 内 容
5月 11、18、22、 23、24日	県総合教育センター	県総合教育センター	5年経験者研修講座「外国につながるのある児童・生徒に関する教育と課題」
6月7日	神奈川大学	神奈川大学法学部	21世紀かながわ円卓会議の取組について
6月10日	横浜中央YMCA	横浜YMCA	ネパール住民の現状と取り巻く課題
7月26日	平塚市教育会館	平塚市教育委員会	第2回平塚市国際教室等連絡協議会「外国につながる子どもの未来を支えるために」
8月22日	横浜国立大学	横浜国立大学	教員免許状更新講習「日本の学校で学ぶ外国につながる子どもたち」
10月25日	財団事務所	明治大学 国際日本学研究科	多文化共生と地域社会フィールドワーク「かながわ国際交流財団の活動概要と多言語情報提供に関する取り組み状況」
10月30日	かながわ県民センター	国立女性教育会館 (独立行政法人国際 協力機構JICA)	JICAアセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー「在住外国人の生活支援の取組」
12月9日	青山学院大学	青山学院大学 国際政治経済学部	特別講座「国際交流実務論」15回の1回分として、かながわ国際交流財団の設立目的及び取組の歴史並びに平成29年度の事業概要
12月13日	神奈川県立川崎高等学校	神奈川県立 川崎高等学校	さまざまな進路・生き方を知る「国際関係の仕事」
12月14日	神奈川県立国際言語文化 アカデミア	神奈川県立国際言語 文化アカデミア	やさしい日本語関連教材検討助言
1月31日、 2月8日	県警察総合研修センター	神奈川県警察	国際総合実務専科「多文化共生、外国人とのコミュニケーション等について」
3月16日	川崎市ふれあい館	川崎市ふれあい館	人権尊重学級「多文化な人々を中心とした包括的なケア」
3月19日	崎陽軒ヨコハマジャスト	神奈川県社会福祉 協議会	民生委員児童委員テーマ別研修「私たちの地域に住む外国の人々について知ろう、そして知り合おう！」

(イ) 審議会の委員等

依頼者	委員名
かながわ県民活動サポートセンター	かながわボランティア活動基金21 幹事
神奈川県県民局国際課	かながわ国際政策推進懇話会 委員
神奈川県県民局国際課	かながわ留学生支援コンソーシアム運営委員

神奈川県政策局総合政策課	神奈川県地方創生推進会議委員
神奈川県教育委員会	スーパーグローバルハイスクールに係る運営指導委員会
神奈川県エイズ対策推進協議会事務局	かながわレッドリボン賞選考委員会委員
かながわ地球環境保全推進会議	かながわ地球環境保全推進会議委員
松田町	松田町民文化センター複合拠点施設化検討協議会
神奈川県高等学校国際教育研究協議会	同協議会相談役、国際理解発表大会 審査員
あーすネットかながわ	あーすネット幹事
生活クラブ生活協同組合	キララ賞選考委員会 委員
神奈川県ユニセフ協会	理事、運営委員
(一社)神奈川県日中友好協会	理事
NPO 法人国際連合世界食糧計画 WFP 協会横浜支部	運営委員
(公社)青年海外協力協会	JICA プラザよこはまアドバイザー委員
(学法)石川学園	横浜デザイン学院教育編成委員会委員

3 国際性豊かな人材の育成

(1) 高校国際教育支援

① 高等学校への学習プログラム支援事業

高校生が地域と世界へ興味・関心を持つよう、財団が培ってきた国際教育のノウハウおよび講師のネットワークを活用し、県内高校に講師を派遣し国際教育を支援した。

日 程 平成 29 年 7 月～平成 30 年 3 月

会 場 県内高校

対 象 県内高校生

内 容 講演、ワークショップなど

実施校数 15 校 (4, 197 名) (県立相模向陽館高校、県立伊志田高校、県立白山高校、県立平塚江南高校、県立橋本高校、川崎市立橋高校、クラーク記念国際高校、県立茅ヶ崎高校、横浜創学館高校、県立麻生高校、県立横須賀大津高校、県立横浜平沼高校、県立神奈川総合高校、県立追浜高校、県立座間総合高校)

(参考 : H28 15 校 5, 074 名)

② 高校生対象国際セミナー開催事業

ア 青少年国際セミナー

「世界の入口に立とう！」を共通テーマに、世界の現状や課題に対する理解を深め、豊かなコミュニケーション力と多様なものの見方を育むための国際セミナーを実施した。

日 程 平成 29 年 12 月 17 日 (日)

会 場 JICA 横浜国際センター (横浜市中区)

講 師 土屋陽介 (開智日本橋学園中学高等学校教諭)、青年海外協力隊 OB/OG、JICA 横浜職員、JOCA 職員、JICA 研修員

テ ー マ 「世界を変える私の目標～持続可能な開発目標 (SDG s) について考える～」

対 象 県内在住及び在学の高校生及び 18 歳以下の社会人

参加者数 42名
共 催 (独行)国際協力機構横浜国際センター
後 援 神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、(一財)神奈川県私立中学・高等学校協会

イ インターナショナル・カフェ事業

(ア) インターナショナル・カフェ (KANAFAN STATION、他)

各回4名前後の留学生が出身国の文化や習慣、学校生活の様子などを日本の高校生に紹介し、英語や日本語でコミュニケーションをする交流会を開催した。また、アウトリーチとして県央地区での開催も行い、食を通じた文化理解と交流を行うことができた。

日 程 平成29年5月28日、6月25日、7月23日、11月19日、平成30年1月28日
会 場 KANAFAN STATION (横浜市神奈川区) 及びYMCA 健康福祉専門学校 (厚木市)
講 師 県内留学生等 25名 (留学生23名10か国、青年海外協力隊OB等2名)
対 象 県内高校生
内 容 留学生の出身国紹介、交流・ディスカッション、料理づくり
参加者数 95名

(イ) インターナショナル・カフェ (フィールドワーク)

グローバル化が進展する中、エスニックタウンとして時代に応じて変化してきた東京都新宿区の大久保地区を歩き、多文化な社会の一端に触れ、交流する機会を提供した。

日 程 平成29年8月6日(日)
会 場 大久保駅・新大久保駅周辺 (東京都新宿区)
コーディネーター 稲葉佳子 (法政大学大学院講師)、ゲスト留学生3名
対 象 県内高校生、教員
参加者数 12名

(2) 大学間連携グローバル人材育成

① 国連大学グローバルセミナー開催事業

国連大学と共催し、県内大学をはじめ、首都圏を中心とする大学の協力を得、留学生を含む学部3、4年生と大学院生を主な対象として実施した。

日 程 平成29年8月29日(火)～9月1日(金) (3泊4日)
会 場 総合研究院大学、IPC 生産性国際交流センター (三浦郡葉山町)
講 師 高須幸雄 (人間の安全保障に関する国連事務総長特別顧問)、佐藤美央 (国際移住機関東京事務所駐日代表)、瀧澤三郎 (認定NPO 法人国連 UNHCR 協会理事長)、ステューブ・デイ (大分大学教授) 他
対 象 大学生、大学院生、留学生
テ ー マ 「グローバル自由経済における国際機関の役割—国境を越えて移動する人々をめぐって— The Role of International Organizations in the Global Economy: Movement of People Beyond Borders」

かながわセッション

テーマに即した視点で地域で活動するNGO/NPOの方々を講師とし、地域社会で生じる課題や具体的な取り組みについて学んだ。

- A. 「国境を越えて移動する子どもたちの教育と進路を考える」
- B. 「地域から『社会を変える』—『共に闘い』、『共に生き』、『共に学び』40年・川崎からの発信—」

C. 『移民の女性化』後の安全な定住—外国籍女性に対する暴力とコミュニティにおける人間の安全保障

D. 「日本での移民の社会的／地域的統合：インドシナ難民の経験から」

参加者数 86名（うち、留学生27名（14か国・地域））

共 催 国際連合大学

協 力 (公財)国連大学協力会

協力大学 青山学院大学、慶應義塾大学、東海大学、横浜国立大学、国際基督教大学、国際大学、中央大学、津田塾大学、東京大学、早稲田大学

② インカレ国際セミナー開催事業

「アジアの中の日本」を統一テーマとして、首都圏の大学、研究者等との協力を得て開催した。「無国籍」や「非国家アクター」がテーマとなり、改めて「国家」について考える契機となった。

日 程 平成29年11月24日（金）～11月26日（日）（2泊3日）

会 場 湘南国際村センター（三浦郡葉山町）

講 師 陳天爾（早稲田大学国際学術院教授）、谷山博史（日本国際ボランティアセンター代表理事）、木下理仁（かながわ開発教育センター事務局長）

対 象 大学生（主に学部1、2年生）

テ ー マ アジアの中の日本—新しい協力関係に向けて

分科会A 自由貿易の功罪

分科会B 中国とAIIB - 浮上する新たな経済秩序

分科会C 海の安全保障と地域秩序

分科会D 新しい外交関係の構想

分科会E Managing Resources and Environment and Promoting Sustainability

参加者数 55名（うち、留学生13名）

協 力 インカレ国際セミナー組織委員会

協力大学 青山学院大学、神奈川大学、東海大学、東洋英和女学院大学、横浜国立大学、横浜市立大学、東京女子大学、一橋大学、早稲田大学

4 学術・文化交流の促進

(1) 学術交流によるローカリゼーションの強化

① かながわフォーラム開催事業

格差の拡大やそれに伴う貧困の拡がり、またコミュニティの崩壊などの社会的課題の解決に向けて、県内の現状を踏まえながら、連続シリーズ方式として3回開催し議論を深めた。多様な団体の協力を得て企画運営を行い、幅広い分野からの参加を得た。

ア 講演会

日 程 平成29年6月17日（土）

会 場 横浜市技能文化会館ホール（横浜市中区）

講 師 井手英策（慶應義塾大学教授）

名里晴美（(社福)訪問の家理事長）

三浦知人（(社福)青丘社事務局長）

テ ー マ 「私たちはいかにして分断を超えられるのか

～障害者福祉・ヘイトスピーチ・生活保護から考える」

参加者数 143名

イ 勉強会

日 程 平成 29 年 7 月 30 日 (日)
会 場 横浜情報文化センター (横浜市中区)
講 師 馬場拓也 ((社福)愛川舜寿会ミノワホーム常務理事)
早川仁美 (地域のお茶の間研究所さろんどて代表)
テ ー マ 「分断を超えたコミュニティを育む市民社会のかたち」
参加者数 19 名

ウ シンポジウム

日 程 平成 29 年 11 月 11 日 (土)
会 場 湘南国際村センター (三浦郡葉山町)
講 師 井手英策 (慶應義塾大学教授)
原美紀 (NPO 法人びーのびーの事務局長/港北区地域子育て支援拠点どろっぷ施設長)
テ ー マ 「かながわから『頼り合える社会』をつくるために」
参加者数 50 名
共 催 神奈川県、(一社)インクルージョンネットかながわ、NPO 法人ココロまち、NPO
法人外国人すまいサポートセンター、NPO 法人びーのびーの
協 力 神奈川県立保健福祉大学 (地域貢献研究センター)、NPO 法人まちづくり情報セン
ターかながわ、七里が丘こども若者支援研究所
後 援 (社福)神奈川県社会福祉協議会、(公社)神奈川県社会福祉士会、(公社)かながわ
福祉サービス振興会、(一社)神奈川県介護支援専門員協会、神奈川新聞社、神奈川
県弁護士会

② 湘南国際村アカデミア開催事業

湘南国際村に立地している研究機関の成果や知的資源を活用して、専門家と市民との対話の場を提供した。また湘南国際村フェスティバルに出展し、多文化共生の理解を拓げる一助とした。

ア 湘南国際村アカデミア (企画会議)

日 程 平成 30 年 1 月 10 日 (水)・2 月 15 日 (木)
参加者 (公財)地球環境戦略研究機関(IGES) (自然資源・生態系サービス領域研究員等)、
葉山町 (政策財政部政策課)

イ カフェ・インテグラル

【第 1 回】

日 程 平成 30 年 2 月 3 日 (土)
講 師 城川美佳 (神奈川県立保健福祉大学人間総合・専門基礎担当専任講師)
テ ー マ 「お産をめぐる文化の違い～多文化共生社会に向けて～」
参加者数 17 名

【第 2 回】

日 程 平成 30 年 2 月 10 日 (土)
講 師 小野田真二
(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)持続可能性ガバナンスセンター研究員)
テ ー マ 「知っておきたい SDGs～私たちの生活と未来～」
参加者数 15 名

会 場	湘南国際村センター（三浦郡葉山町）
共 催	神奈川県
協 力	神奈川県立保健福祉大学、(公財)地球環境戦略研究機関、総合研究大学院大学、 (株)湘南国際村協会、湘南国際村事業発信強化委員会
後 援	葉山町

ウ 湘南国際村フェスティバルへの参加協力

日 程	平成 29 年 5 月 3 日（水）～5 月 5 日（金）
会 場	湘南国際村センター（三浦郡葉山町）
テ ー マ	「子どもたちの絵画を通じてかながわから世界につながろう」
内 容	カナガワビエンナーレ国際児童画展（13 点）、外国人学校の子どもたちの絵画展 （40 点）の作品展示、ギャラリーガイド、工作コーナー設置及び県内の多文化状況 の紹介や財団事業紹介等
参加者数	1,290 名
協 力	外国人学校の子どもたちの絵画展実行委員会、県立地球市民かながわプラザ

(2)文化交流の推進

「すべての地域住民」が「ミュージアムにアクセスできること」を目的としたプロジェクト（MULPA: Museum UnLearning Program for All）では、県立近代美術館をはじめとする県内 4 つの公立美術館等のプラットフォームづくりに取組んだ。

① 社会教育・文化施設間連携事業(通称マルパ)

最初のイベントとしてフォーラムを開催し、年度後半から 4 つの美術館が主体となり、県内在住の定住外国人や障がい者等を対象とするワークショップについて実施あるいは企画検討をした。

ア フォーラム

日 程	平成 29 年 7 月 8 日（土）
会 場	関東学院大学関内メディアセンター（横浜市中区）
テ ー マ	「みんなで“まなびほぐす”美術館」
参加者数	133 名 内訳：一般参加者 54 名、ゲスト参加者 14 名、ユースボランティア 29 名、 運営側 36 名

イ ワークショップ等

日 程	共催/会場	内 容	参加者数
10 月 14 日	神奈川県立近代 美術館・葉山館	【写真ワークショップ】 「あなたとポートレート～あなたらしく、私らしく～」	18 名
3 月 4 日	神奈川県立近代 美術館・葉山館	【演奏会・交流会】 「冬から春の音風景 澤村祐司が触れる箏の世界」	演奏会 120 名・交流会 親子 2 組
3 月 21 日	神奈川県立近代 美術館・葉山館	【講演会】 「ユニバーサルミュージアムとは何か―触文化論に基づく 展示・教育普及事業」	22 名
①2 月 25 日 ②3 月 25 日	茅ヶ崎市美術館 美術館（およびそ の周辺）	【リサーチ型アートプロジェクト】 「美術館までつづく道」	①24 名 ②9 名

ウ 運営委員会

神奈川県立近代美術館、茅ヶ崎市美術館、平塚市美術館、横須賀美術館、相模湾・三浦半島アートリンクの各代表者により構成

日程	会場	内容
7月18日	神奈川県立近代美術館・葉山館	フォーラムの結果報告と振り返り
2月13日	神奈川県立近代美術館・葉山館	各美術館のマルパ・ワークショップの方向性・進捗状況等について

エ 作業部会

神奈川県立近代美術館、茅ヶ崎市美術館、平塚市美術館、横須賀美術館の学芸員、相模湾・三浦半島アートリンク、イミグレーション・ミュージアム・東京及び（一社）Kuriyaの実践者・代表者により構成

日程	会場	内容
6月27日	関東学院大学関内メディアセンター (横浜市中区)	障がい者実務講習およびフォーラム事前打合せ 講習講師：内山早苗 (UD ジャパン)
7月18日	神奈川県立近代美術館・葉山館	フォーラムの結果報告と振り返り
10月19日	神奈川県立近代美術館・葉山館	マルパ・ワークショップの実施要綱案他について
12月5日	神奈川県立近代美術館・葉山館	各美術館のマルパ・ワークショップ案について
2月13日	神奈川県立近代美術館・葉山館	各美術館のマルパ・ワークショップの方向性・進捗状況等について

(3) 調査研究

当財団のミッションの遂行を念頭に、中長期的な視野に立ち、神奈川県域における人づくり・地域づくりに関わる顕在的・潜在的な重要課題について現状を調査し、結果を財団の各事業に反映させた。

① 調査研究事業

ア KIF 設立 40 周年・資料整備等

昭和 52 年 2 月に設立され 40 周年を迎えた当財団の歩みについてインターネットで発信した。
(財団ホームページに掲載)

内 容 財団発行物や活動記録の収集・保存、事業紹介ブログの掲載

イ 松田町国際交流事業【松田町委託】

(ア) 国際交流組織の設立に向けた取組み

内 容 英会話ボランティアの募集、個別面談、研修等の実施

(イ) 英会話ボランティアとの打合せ会

開催概要 11 回、延べ 110 名参加

(ウ) 母体設立に向けたイベントにかかる支援等

日程	会場	イベント名
8月26日	松田町商店街、酒匂川町民親水広場	まつだ観光まつり
11月26日	J R松田駅前、松田町健康福祉センター	まつだ産業まつり
11月26日	アメリカ大使館 (屋外スペース)	アメリカ大使館における物品販売
2月24日	松田山・西平畑公園、松田町民文化センター	まつだ桜まつり

(エ) 国際交流の母体（準備会）の設立に向けた検討(勉強会の実施)

日程	会場	内容	参加者数
9月28日	松田町役場 1AB会議室	「四国の山奥に外国人客急増！その理由は？」 講師：木下理仁（かながわ国際交流財団専門員／東海大学国際学科講師）	16名
10月27日	松田町役場 1AB会議室	国際交流協会ってなに？ どうやってつくるの？ 講師：渡邊伸幸（大田区観光・国際都市部 国際都市・多文化共生推進課）	13名
11月14日	松田町役場 4AB会議室	子どもの国際交流と「グローバル人材」の育成 講師：小藤俊樹（横浜市立神大寺小学校校長／神奈川大学客員研究員）	21名
12月1日	松田町役場 4AB会議室	友達を誘いたくなる素敵な地域のつくり方 講師：岡田謙一郎（逗子コミュニティパーク実行委員長）	15名
1月30日	松田町役場 1AB会議室	外国人が次々に来るゲストハウスのつくり方 講師：保坂行徳（徳島県三好市 古民家宿「空音遊」オーナー）	31名
2月19日	松田町役場 4AB会議室	在住外国人によるイベントいろいろ 講師：サブコタ・ドルラズ（かながわネパール人コミュニティ会長）	16名
3月17日	松田町役場 4AB会議室	ワークショップ「松田町の国際交流事業を考えよう」 講師：木下理仁（かながわ国際交流財団専門員／東海大学国際学科講師）	12名

(オ) 町の英語版ホームページ作成

HP名：Matsuda Navi

URL：<http://matsuda-intl.org/>

② 学術交流・成果発信事業

財団事業の成果を県内外に周知するため、カフェ・インテグラル（2回分）の講演の様様をYouTubeにおいて公開した。